

学校だより

プラタナス



令和3年9月2日(木)

市川市立市川小学校

No.15 校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/ichikawa-sho>



奈良時代には、すでに水洗トイレがあった?!

私たちは、当たり前のように「トイレ」という言葉を使っています。でも、少し前までは「便所」「お手洗い」「化粧室」であり、もう少し遡ると「はばかり」あるいは「せっちん(雪隠)」などとも言っていたのを知っています。「御不浄」「ちようず(手水)」という呼び方もあります。調べると、便所を丁寧に表した言葉で、女性が多く使ったといわれています。さらに「かわや(厠)」という場合もあります。今でも駅などのトイレの案内に、中国語表記のこの文字を見ることができます。

また、トイレの表示といえば「WC」という略語がありますが、「ウォーター・クローゼット」であることは言われて「そうそう!」と思ひ出す程度です。直訳すると「水洗の小部屋」とでもなるでしょうか。半世紀前は「ぼっとな便所」で、その後水洗の便器が普及してWCが使用されるようになったわけですが、英語圏の人には通じないので要注意です。なぜなら、海外では「Toilet」「Washroom」という表記が一般的だからです。

さて、先の「かわや(厠)」ですが、なぜそのような言い方をするのか諸説ある中で、次のような説明があります。“厠は数ある便所の別名の中でも古く、奈良時代から見られる。712年『古事記』には、水の流れる溝の上に設けられていたことが示されており、「川の上にかけ渡した屋」の意味で「川屋」の説が有力とされる。”(語源由来辞典より引用)とあります。

用を足すと、それらがたちまちに水に流されていく様子が想像できます。そういった意味で、古事記が編纂された頃には水洗トイレがあったと解釈できるわけです。こうしたことを、6年生の歴史学習のネタとして使ったこともありました。



昔、学校のトイレは怪談話によく登場しました。大便器の下に目をやると、死んだ生徒の顔が浮かんでいるとか、しゃがんでいると便器の下から出てきた手に足首を掴まれて、引きずり込まれるとか…。さすがにもう「ぼっとな便所」はありませんが、理由あって学校には未だ和式トイレは健在です。文科省が発表した昨年9月1日現在の「公立学校施設のトイレの状況について」を見ると、洋便器率が57.0%(※前回43.3%)、和便器率が43.0%(前回56.7%)という結果でした。さらに、トイレの整備が進んでいくものと思われます。(※前回は2019年調査)

また、昨年11月に日本トイレ研究所が小学生対象に実施した実態調査(有効個体数5678人)によると、「4人に1人が便秘の疑い」とされています。排便は、食事・睡眠・運動と同様、生きる上で欠かせない生理現象です。にもかかわらず、大人も子供も排便について学ぶ機会は極めて少ないのが現状で、日常の会話でも忌避される傾向にありますが、排便を通して健康や生活リズムを整えるようにしたいものです。昨年度2年生が実施したヤクルトの出前授業では、「うんちは健康のバロメーター」であると、朝うんちの重要性とその形状や色などについて丁寧に教えてくれました。

学校での排便は恥ずかしいことではないという意識の浸透と洋式化&美化に努めていきます。

《自分を、家族を、友達を守るために、感染症対策の強化を》

- ▼前日の夜間や登校時に体調不良が見られたら自宅で休養を！(朝の健康観察を必ずお願いします)
- ▼同居家族が体調不良の場合、児童生徒も登校を控えて！
- ▼マスク(不織布を推奨)の着用、換気と手洗いの徹底を、家庭や学校以外でも！

自ら学ぶ意欲を引き出し、自信へと高めることは最重要課題です



7月初旬に回答をいただいた学校評価の集計を行いました。メールのみの回答だったためか、昨年度12月の95%の回答率には遠く及びませんでした。

結果を見ますと、引き続き③⑧は課題として残ります。また、⑩⑪に関しては10%前後が「わからない」と答えています。伝えきれていない原因をコロナのせいにすることなく、丁寧な対応を探ります。

また、児童対象の「生活アンケート」とも対比していきます。そして、子供たちの悩みや潜在化したいじめ等の発見とその対応・早期解決をめざします。なお、ご意見欄にいただいた声は、改めて紹介いたします。

学校評価（保護者アンケート）7月の集計結果

	アンケート項目 ※回答率60.0%	肯定的 回答
1	お子さんは、学校に通うことを楽しいと言っている。	90.9%
2	お子さんは、学校の授業がわかりやすいと言っている。	87.9%
3	お子さんは、わからないことを自分から調べるなど、いろいろなことに興味を持って学習に取り組んでいる。	71.5%
4	お子さんは、家庭学習の習慣が身についている。	80.6%
5	お子さんは、友だちや近所の人などに、自分から進んであいさつをしている。	78.5%
6	お子さんは、自分の役割に責任をもって取り組んでいる。	84.6%
7	お子さんは、誰とでもやさしく関わっている。	90.7%
8	お子さんの自己肯定感(自己有用感)が高まっていることを感じる。	75.9%
9	お子さんは、進んで(外で遊ぶなど)体を動かしている。	74.1%
10	お子さんの体力(運動量)について、特に心配はない。	68.7%
11	お子さんは、自らの安全(交通事故・ケガなど)に気をつけて生活している。	86.9%
12	お子さんは、規則正しい習慣(睡眠・食習慣など)が身についている。	85.5%
13	学校は、目指す子供の姿や学校経営方針について、保護者に理解されるように努めている。	88.8%
14	学校は、保護者や地域の方々とともに、子供を育てる取り組みを進めている。	81.8%
15	学校は、保護者の思いや願いに対して適切に対応している。	86.2%
16	学校は、特色ある取り組みや教育を進めている。	71.5%
17	学校は、特別支援教育あるいは配慮を要する児童への支援に関して丁寧に取り組んでいる。	79.2%
18	学校は、子供一人一人に適切な指導や支援を行っている。	76.6%
19	おたよりやメール、学校ホームページによる情報提供は適切に行われている。	90.9%
20	学校での教育活動や対応に、一定の安心感がある。	88.6%